

2023年4月9日 イースター礼拝

説教題「平和と赦しの息吹を受けて」

ヨハネ福音書 11 章 25 節

主任牧師 加藤 誠

**「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。」(ヨハネ11章25節)**

弟子たちはイエス・キリストに夢を見ていました。この主イエスにおいて神の国がほんとうに実現するのだと。強い者が弱い者を蹴散らし、金や武器の力で真実が捻じ曲げられていく世界が終わり、神の愛をすべての人が分かち合う世界が実現する夢を本気で主イエスに見ていたのです。彼らは家族、仕事、自分の計画などすべてを後ろにおいて、主イエスに従ってきたのです。

けれども、そのイエス・キリストが十字架刑によって処刑されるという、受け入れがたい出来事が目の前で起こります。逮捕から裁判、十字架刑まで、わずか半日足らずで、主イエスは彼らの目の前から奪われてしまったのです。「こんなことがあってよいのか!」「神さま、あなたはなぜ主イエスを邪悪な者たちの手で抹殺されることを許されたのですか!」。困惑と混乱の中に彼らは打ちのめされ、その心は粉々に砕かれたのです。

逮捕の場面で主イエスは、「ナザレのイエスを捜している」という兵士たちに、「わたしがそのイエスだ」とご自分から名乗り、「わたしを捜しているなら、この人たちを去らせなさい」と言って弟子たちを守ってくださった。なのに、その肝心の場面で、自分たちは兵士たちの前に足がすくみ、「イエスさま、わたしも一緒に行きます」という一言を言葉に出来なかった。いったい何のために自分はすべてを犠牲にして主イエスに従ってきたのか…。弟子たちは深い後悔に沈み、暗い部屋の中から一步も外に出ることが出来なくなっていたのです。

けれども安息日の翌朝、十字架の暗闇で覆われた世界に復活の希望の光が届けられます。暗い部屋に閉じこもっていた弟子たちの真ん中に、復活の主がお立ちになり、「あなたがたに平和があるように」と語りかけられました。自分を裏切り、見捨てた彼らの間に、主イエスは平和を携え、やさしい微笑みと共に立たれたのです。そして「聖霊を受けなさい」と彼らに息を吹きかけ、「父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わす。だれの罪でも、あなたがたが赦せば赦される。あなたがたが赦されなければ、赦されないまま残る」と言われて、「赦し」という大切な使命を弟子たちに託して、彼らをこの世界に派遣されたのです。

それは愛と平和と赦しの息吹でした。イエス・キリストの復活の命にあずかるとは、この主イエスの愛と平和と赦しの息吹を受けていくことなのです。

ただ、この復活の主の言葉に弟子たちは大いに戸惑ったことでしょう。「イエス様、わたしが神さまの赦しを携えて出かけていくのですか?」「わたしにはそんな大切な仕事をする資格はありません。あなたに従いきれず、十字架に見捨ててしまったわたしに、どうしてそんな大切な仕事をする資格があるでしょうか…」と。

けれども、復活の主は、自らの弱さと未熟さと欠けを思い知らされて、小さくされた者をこそ求めておられたのです。神さまは不思議です。人間の目から見て、賢く、強く、器用で、何でもできてしまう者はお用いになられないようです。強い人、賢い人は、他者の痛みや悲しみを知ることができないから。神さまはむしろ、自ら痛みや悲しみを背負い、苦しみ悩み、自分に絶望した経験を持つ者をこそ、ご自分の器としてお用いになられます。「俺たちは、主イエスの弟子としてすべてを捨てて従ってきました！」と胸を張る弟子ではなく、「主よ、あなたに従いきれないわたしを赦し、憐れんでください」と、主の前に小さくひれ伏すほかない者をこそ、神さまはご自分の大切な使命を担う者として用いられるのです。

また復活の主は、弟子たちに「赦しと平和」の使命を託して、聖霊の息吹を吹きかけられたのですが、それは「敵と味方の壁」を打ち破る息吹でした。部屋の中に閉じこもり動けなくなっていた弟子たちにとって、部屋の外の人々はみんな「敵」でした。主イエスを憎み、あざけり、十字架に追いやった、赦しがたい「敵」でした。神さまの正しさによって、滅ぼされるべき「敵」だったのです。けれども復活の主は「わたしがあなたに託す赦しを携えて、出かけていきなさい」と大切な働きを弟子たちに託されます。聖書には書かれていませんが、主イエスは弟子たちに聖霊の息吹を吹きかけながら、こう語りかけられたのではないのでしょうか。「あなたがたがこの部屋の扉の外で出会っていく人たちはけっして『敵』ではない。あなたがたと同じように、わたしが足を洗っている大切な一人ひとりであることを思い起してほしい。十字架の前の晩、わたしがあなたがたの前にひざまずき、あなたがたの足を洗ったことを覚えているか。わたしを売り渡したユダの足も、わたしのことを知らないと言ったペトロの足も、わたしを十字架に見捨てて逃げたあなたがたすべて足をわたしは洗った。そしてわたしは十字架の上で、わたしを憎み、あざけり、わたしに向かって唾を吐く一人ひとりの足を洗ったのだ。わたしがあなたがたを遣わすのは、あなたがたの『敵』のもとではない。あなたと同じように、わたしが足を洗った、わたしにとって大切な一人なのだ。わたしがあなたがたの足を洗ったように、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい」と。

復活の主は今日も、この世界において、私たち一人ひとりの足を洗い続けてくださっている十字架の主です。十字架の主は、神に背を向け、神を知らないとうそぶき、お互いの間に「敵」と「味方」の線を引き、心の溝と悲しみをつくり出し続けている私たちの間に、神さまの平和がなることを祈り続けておられます。

「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は死んでも生きる」(11:25)、「わたしは平和をあなたがたに残し、わたしの平和を与える」(14:27)、「わたしの愛にとどまりなさい」(15:9)。

この復活の主は今日も、自らの小ささを知る者一人ひとりに聖霊の息吹を吹き入れてくださいます。この主から愛と平和と赦しの息吹を大切に受け取り、新しい一歩をここから歩みだしていきましょう。